

宜野湾市の基地の現状



普天間飛行場の周囲には**学校や公共施設などが約120カ所存在**し、市民は絶えず墜落の危険性と騒音被害などの基地被害にさらされています。

宜野湾市は、沖縄県中南部に位置し、南部と中部を結ぶ交通上の要所となっております。また、平坦な土地が少ない中南部地域においては大きな利用価値を秘めています。

しかしながら、**普天間飛行場がまの中心部に位置しているため、いびつな都市形成をせざるを得ず、市民生活・市財政に大きな影響を及ぼしております。**



凡例
 市町村界
 駐留軍用地施設境界
 国道
 県道
 騒音測定器設置地点

宜野湾市の概要
 面積：19.8km² (平成26年10月)
 人口：98,270 (平成29年1月末)
 世帯数：42,770 (平成29年1月末)

普天間飛行場の面積
475.9ha (東京ドーム約100個分)
 普天間飛行場は、市の中央に位置し、市面積(約19.8km²)の約25%を占めています。また、市の北側にあるキャンプ瑞慶覧の面積(約1,059km²)も合わせると市面積の約30%が米軍施設によって占められています。

年間騒音発生回数
12,152回 (平成29年度 宜野湾地区)
 市の中でも特に騒音発生回数が多い上大謝名地区では、1日当たり33.3回もの騒音が測定されており、基地周辺では、日常的に騒音にさらされた生活を余儀なくされており、住民にとって大きな負担となっています。

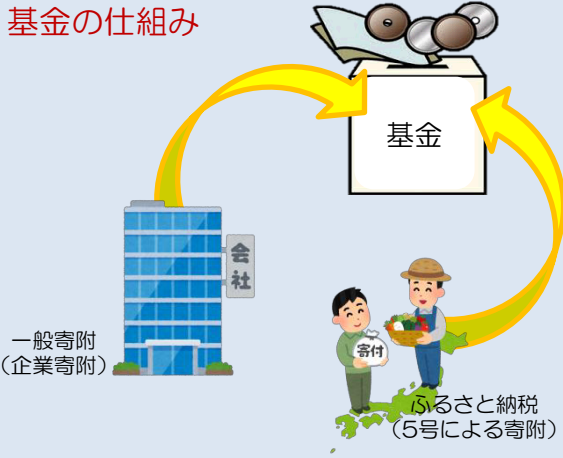
宜野湾市の人口密度 (平成30年1月末現在)
約4,968人/km²
基地の面積を除くと... **約7,061人/km²**
 基地を除いた市の人口密度は、東京都(約6,169人/km²)や大阪府(約4,640人/km²)を上回る人口密度となっています。

基地と財政 **6.5%**
 市の一般歳入額に占める基地関係収入の割合は、平成29年度においてわずか6.5%となっております。基地があることによって、都市計画や施設配置に影響を与えるなど、市の経済発展を阻害する要因にもなっています。

普天間未来基金の趣旨と活用方法

駐留軍用地(普天間飛行場、キャンプ瑞慶覧)の返還後の跡地利用については、本市も多額の財政支出が必要となります。そこで、駐留軍用地の返還後を見据えた取り組みを進めるとともに、跡地利用に伴う将来の財政需要への備えと、基地跡地というフィールドにおいて活躍する未来を担う人材育成などに活用するため、「普天間未来基金」を創設しました。

基金の仕組み



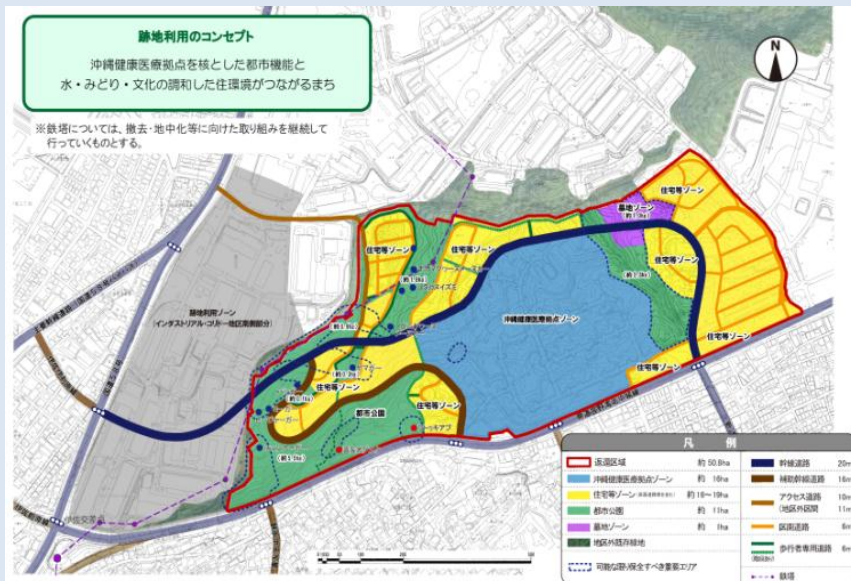
基金の活用方法

- 1) 駐留軍用地跡地利用の推進に向けた基盤整備事業等に係る費用
- 2) 駐留軍用地跡地利用の推進に向けた調査及び機運醸成に係る費用
- 3) 駐留軍用地跡地利用の推進に向けた本市の未来を担う人材育成に係る費用
- 4) その他市長が駐留軍用地跡地利用のため必要と認める事業

● 西普天間住宅地区跡地

- 平成27年3月に返還されたキャンプ瑞慶覧の一部である西普天間住宅地区(約51ha)については、平成27年7月に跡地利用計画を策定し、平成30年4月に一部変更を行いました。
- 国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点の形成に向けては、琉球大学医学部及び同附属病院の移設を中心として取り組んでおります。沖縄健康医療拠点は、日本及び沖縄の健康医療の状況を踏まえ、「高度医療・研究機能の拡充」「地域医療水準の向上」「国際研究交流・医療人材育成」の3つを柱として整備を進めることとしています。

キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区) 跡地利用計画 平成30年4月



● 普天間飛行場

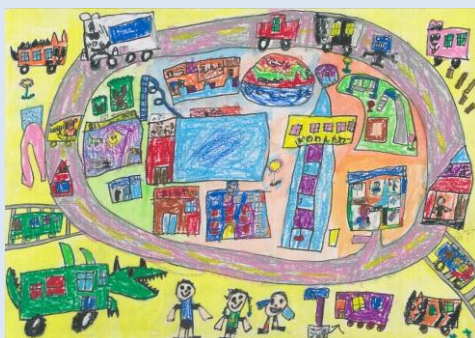
- 平成24年度に宜野湾市及び沖縄県共同で跡地利用計画の策定に向け取り組んでいます。
- 沖縄振興の舞台となる「緑の中のまちづくり」や100haを超える大規模な公園の整備の検討、鉄軌道を含む新たな公共交通軸の検討を行っています。
- 今後、夢のあるまちづくりを目指し具体化を図っていきます。

未来の普天間飛行場跡地(イメージ)



● 人材育成・意向醸成活動

- 平成29年度に市内小学校の児童・生徒から普天間飛行場跡地～ゆめのあるぎのわんのみらい～を題材にした絵画コンクールを実施しました。
- 未来を担う子供たちが跡地利用について考え、紙いっぱい「夢」のあるまちが表現されています。



大賞作品(新しい宜野湾市～笑顔いっぱい～)



大賞作品(まいにちがハッピーなまち)